
医療と介護の連携推進業務委託 報告書

令和7年3月
日野市健康福祉部高齢福祉課

(このページは白紙です)

目 次

0	業務の概要	1
0-1	業務の目的	1
0-2	業務の進め方	1
1	日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催	3
1-1	会議の概要	3
1-2	各回の内容	4
2	多職種協働による医療と介護の連携推進勉強会の運営支援	9
2-1	勉強会の開催状況	9
2-2	各会の内容	10
3	地域住民への普及啓発の実施支援	17
3-1	作業の概要	17
3-2	イベントの開催結果	18
4	多職種連携ルールの更新	27
4-1	作業の概要	27
4-2	ルールの更新内容	28
5	国、東京都・他自治体の取組等の情報提供	33
5-1	情報提供の実施状況	33
5-2	情報提供の具体的な内容	34
6	次年度の取組方針の検討	39
6-1	検討部会の開催	39
6-2	多職種協働による連携推進勉強会の開催	39
6-3	地域住民への普及啓発の実施	40
6-4	多職種連携ルールの更新	40
6-5	国、東京都・他自治体の取組等の情報提供	40

(このページは白紙です)

0 業務の概要

0-1 業務の目的

本業務は、日野市在宅高齢者療養推進協議会（以下、「推進協議会」）、日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会（以下、「検討部会」）及びその他在宅高齢者の療養環境整備支援に係る業務について、円滑かつ効率的、効果的に運営することを目的とする。

「推進協議会」は、高齢者が安心して在宅療養を受けられるよう、介護、福祉、医療、保健の各分野のサービス提供主体間における円滑かつ有機的な連携体制の構築を推進するため、以下の4項目について協議・検討を行うものである。

「検討部会」は、「推進協議会」の下に設置され、在宅療養環境の向上及び医療と介護の連携体制の構築等に関する取組みについて具体的に検討するための会議体である。

- 在宅療養における介護、福祉、医療、保健の各分野の関係機関及びサービス提供主体間の連携に関すること
- 在宅療養に関する課題の検討に関すること／中でも、医療と介護が主に共通する4つの場面を意識した検討に取り組むこと／具体的には4つの場面ごとの現状分析・課題抽出・目標設定等を行う前提として、地域のめざすべき姿を設定し、その目的を実現するために、達成すべき目標を4つの場面ごとに設定するルール作りを検討すること
- 在宅療養の推進に係る情報の普及啓発に関すること
- その他在宅療養の推進に関し、市長が必要と認める事項

0-2 業務の進め方

「検討部会」を作戦本部として、この運営支援を中心に、以下の各項目について企画・運営を進めた。

- 多職種による医療と介護の連携推進勉強会の運営支援
- 地域住民への普及啓発の実施支援
（市民啓発イベントの開催支援 及び 市民啓発ガイドブックの更新支援）
- 多職種連携ガイドの情報更新、介護と医療の連携シートの活用検討、多職種が連携する上で配慮すべき事項をまとめたルールの更新
- 国、東京都・他自治体の取組等の情報提供

(このページは白紙です)

1 日野市在宅高齢者療養推進協議会検討部会の開催

1-1 会議の概要

「検討部会」は、在宅療養環境の向上及び医療と介護の連携体制の構築等に関する取組について具体的な検討を進めるために、「推進協議会」のもとに設置された会議体である。平成25年度より、医療と介護の連携に特に関わりの大きい「日野市医師会」「日野市歯科医会」「日野市薬剤師会」「日野市訪問看護ステーション協議会」「日野市立病院」「日野市在宅介護事業者協議会」「ひのケアマネ協議会」「地域包括支援センター」の8団体の代表者と行政を構成員に定期的に活動している。

令和6年度の「検討部会」は、在宅医療と介護連携における課題の整理や取組みの検討を進めながら、連携推進勉強会や市民啓発イベント（「ひの在宅医療・介護サービスフェア」）等の既存の取組みをレベルアップするための新しい試みを企画・検討を進めた。

また、こうした企画・検討を行うにあたっては、ゲストやオブザーバーを招くという新しい試みに体制面でも取り組んでおり、結果として活発な議論を行うことができている。

▼「検討部会」等の開催日程と主要な検討テーマ

回数	日程	主要な検討テーマ
第1回	令和6年5月15日	○令和6年度の取組の基本的な方向性について ○連携推進勉強会の開催内容について ○市民啓発イベント等の方向性について
第2回	令和6年8月19日	○市民啓発イベントの開催内容及びPR施策について ○第2、3回連携推進勉強会の開催内容について
第3回	令和6年11月13日	○生活福祉課との情報交換について ○第3回連携推進勉強会の開催内容について ○市民啓発イベントの開催内容及びPR施策について ○在宅療養支援体制の充実について
第4回	令和7年1月20日	○市民啓発イベントの開催内容について ○今後の連携推進勉強会の開催方針について ○次年度の検討部会等の開催計画について

1-2 各回の内容

1-2-1 第1回検討部会

第1回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：令和6年5月15日（水） 18：30～20：45
開催場所	：市役所505会議室とビデオ会議（Zoom）のハイブリッド
参加者	【委 員】 ：日野市医師会理事 望月氏、日野市歯科医会 武内氏、日野市薬剤師会 伊藤（威）氏、日野市訪問看護ステーション協議会 湯谷氏、日野市立病院患者総合支援室長 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会通所部門統括責任者 伊藤（麻）氏、ひのケアマネ協議会 横川氏、日野市地域包括支援センター代表 相馬氏 【事務局】 ：志村健康福祉部参事（高齢者福祉・保健担当）、平高齢福祉課長、竹石介護保険課長 ：旗野課長補佐／在宅支援係長、青山保健師、金原（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 検討部会の体制について ・各職種の動きについて（各委員からの報告） 2. 今年度の開催スケジュールについて 3. 第1回連携推進勉強会の開催予定について 【議 題】 1. 今年度の取り組みの基本的な方向性について ①日野市の在宅療養に関する現状と課題の再整理 ②在宅療養支援相談窓口の充実に向けた検討、準備 2. 連携推進勉強会の開催内容について 3. 市民啓発イベント等の方向性について
配付資料	【事前配布】 日野市在宅高齢者療養推進協議会 検討部会員名簿、2023年度第4回検討部会 議事録、2024年度第1回検討部会 資料、日野市わたしの思いをつなぐエンディングノート（令和6年度版）、日野市在宅療養ガイドブック（今年度修正予定）、2023年度事業報告書、2023年度第4回連携勉強会のまとめ・同アンケート結果のまとめ、第5期日野市高齢者福祉総合計画、病気等で歯科医院に通院が困難な方へ～歯科訪問診療のご案内～
結 論	1. 今年度の連携推進勉強会は以下の通り検討・準備を進めることとする。 －第1回勉強会は生活保護・障害者福祉・セーフティネットコールセンターの3部署を加えて第1段階の勉強会を開催する －第2、3回勉強会は行政3部署と専門職のうち最も要望が多かった職種をそれぞれ取り上げることとし、第1回勉強会でニーズを確認する －一次の勉強会から市内の各病院及び日介協に所属する入所施設（の相談員）にも開催案内を送付して参加希望者を募る 2. 市民啓発イベントの企画は以下の通り検討することとする。 －従来からのPR方法の他に、特に40-50代の働き盛りの人達をターゲットに「親の介護をどうするか」を切り口にした企画・PRを検討する －検討の場には検討部会外から栄養士・リハ職にも出席を依頼する

1-2-2 第2回検討部会

第2回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：令和6年8月19日（月） 18：30～20：45
開催場所	：市役所 504 会議室とビデオ会議（Zoom）のハイブリッド
参加者	【委 員】 ：日野市医師会理事 望月氏、日野市歯科医会 武内氏、日野市薬剤師会 伊藤（威）氏、日野市訪問看護ステーション協議会 湯谷氏、日野市立病院患者総合支援室長 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会通所部門統括責任者 伊藤（麻）氏、ひのケアマネ協議会 横川氏、日野市地域包括支援センター代表 相馬氏 【オブザーバー】 ：日野市リハビリテーションネットワーク 本間氏、南多摩地域栄養士会 馬場氏 【事務局】 ：志村健康福祉部参事（高齢者福祉・保健担当） ：旗野課長補佐／在宅支援係長、青山保健師、金原（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 事務局連絡 ・第1回連携推進勉強会の結果報告 ・MCS勉強会@とよだ居宅の開催報告 2. 各職種の動きについて 【議 題】 1. 市民啓発イベントの開催内容及びPR施策について 2. 第2、3回連携推進勉強会の開催内容について 3. その他
配付資料	【事前配布】 2024 年度第1回検討部会 議事録、2024 年度第2回検討部会 資料、「第4回ひの在宅医療・介護サービスフェア」PR資料（案）、「東京都在宅医療ハラスメント相談窓口」チラシ、MCS 勉強会@とよだ居宅の開催報告 補足資料 【当日配布】 2024 年度第1回連携推進勉強会のまとめ・同アンケートのまとめ
結 論	1. 市民啓発イベントは、自分／親が在宅医療・介護が必要になった時にどうすれば良いのか、どこに相談すれば良いかを伝える内容とする。 2. 開催内容は前年度から以下の変更を加えることとする。 －介護保険制度に関する説明をステージ冒頭で実施する －ステージでは質疑応答も実施する －若い世代にも届くようイベントのPR方法やチラシ等の配布先を見直す 3. 若い世代向けには、イベント会場での情報発信に限定せず、イベントの成果を使った情報発信にも取り組むこととする。 4. 第2回連携推進勉強会は、障害福祉課・障害福祉分野との連携をテーマにレクチャーとグループワーク（ざっくばらんに情報交換・質疑応答を行う）を組み合わせた内容で開催することとする。 5. 第3回連携推進勉強会は、医師または訪問看護師との連携にフォーカスした第1段階の勉強会（未参加者でも参加OK）として開催することとする。

1-2-3 第3回検討部会

第3回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：令和6年11月13日（水） 18：30～21：00
開催場所	：市役所505会議室とビデオ会議（Zoom）のハイブリッド
参加者	【委 員】 ：日野市医師会理事 望月氏、日野市歯科医会 武内氏、日野市薬剤師会 伊藤（威）氏、日野市訪問看護ステーション協議会 湯谷氏、日野市立病院患者総合支援室長 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会通所部門統括責任者 伊藤（麻）氏、ひのケアマネ協議会 横川氏、日野市地域包括支援センター代表 相馬氏 【オブザーバー】 ：日野市リハビリテーションネットワーク 本間氏、南多摩地域栄養士会 馬場氏 【事務局】 ：志村健康福祉部参事（高齢者福祉・保健担当）、平高齢福祉課長、大野係長（生活福祉課／ゲスト） ：三浦在宅支援係長、青山保健師、金原（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 事務局連絡 ・第2回連携推進勉強会の結果報告 2. 各職種の動き 【議 題】 1. 生活福祉課との情報交換について 2. 第3回連携推進勉強会の開催内容について 3. 市民啓発イベントの開催内容及びPR施策について 4. 在宅療養支援体制の充実について 5. その他
配付資料	【事前配布】 2024 年度第2回検討部会 議事録、2024 年度第3回検討部会 資料、「第4回ひの在宅医療・介護サービスフェア」PR資料（案）、同会場レイアウト（案）、在宅療養支援体制の充実について、日野市在宅療養ガイドブック_第3版（今回更新版） 【当日配布】 2024 年度第2回連携推進勉強会 参加者アンケートのまとめ
結 論	1. 今回実施した生活福祉課との情報交換を踏まえて、生活福祉分野と連携を向上するための情報交換の継続や、医療と介護の専門職が生活福祉課・ケースワーカーの仕事内容を学べる勉強会の開催について検討することとする。 2. 第3回連携推進勉強会は、訪問看護師を取り上げて、特定の職種との連携にフォーカスした新しい形式の勉強会を以下の通り開催することとする。 －会の冒頭では、訪問看護師から自職種について情報提供をしてもらう －その後は訪問看護師に関する内容に絞った話し合い（第1段階）を行う －情報提供の内容を動画で記録して開催後に関係者へ配信することも検討する 3. 市民啓発イベントの実施内容については前年度から以下のような改善を図ることとする。 －前半は、介入のポイントを分かりやすく伝えるため、場面（「親の様子がおかしい」「だんだん介護の負担が増えてきた」等）を区切って情報提供を行う －後半は、ケアマネ協議会と介護サービス事業所協議会のブースを入れ替える －新たに各協議会を通じて市内各所にチラシの配布やポスターの掲示を行う

1-2-4 第4回検討部会

第4回検討部会の内容は以下の通りである。

▼開催概要

開催日時	：令和7年1月20日（月） 18：30～21：10
開催場所	：市役所 101 会議室とビデオ会議（Zoom）のハイブリッド
参加者	【委 員】 ：日野市医師会代表望月氏、日野市歯科医会代表武内氏、日野市薬剤師会代表伊藤氏、日野市訪問看護ステーション協議会代表湯谷氏、日野市立病院 MSW 高橋氏、日野市在宅介護事業者協議会代表石岡氏、ひのケアマネ協議会代表横川氏、日野市地域包括支援センター代表相馬氏 【オブザーバー】 ：日野市リハビリテーションネットワーク 本間氏、南多摩地域栄養士会 馬場氏 【事務局】 ：志村健康福祉部参事（高齢者福祉・保健担当）、平高齢福祉課長、竹石介護保険課長、高尾健康課長 ：三浦在宅支援係長、青山保健師、金原（以上、高齢福祉課）、委託事業者
プログラム	【報 告】 1. 事務局連絡 ・市民啓発イベントのPR状況等 ・第3回連携推進勉強会の結果報告 ※検討（2）の中で実施 2. 各職種の動きについて 【議 題】 1. 市民啓発イベントの開催内容について 2. 今後の連携推進勉強会の開催方針について 3. 次年度の検討部会等の開催計画について 4. その他
配付資料	【事前配布】 2024 年度第3回検討部会 議事録、2024 年度第4回検討部会 資料、「第4回ひの在宅医療・介護サービスフェア」ステージ構成（案）、同 ブースの実施内容等一覧 及び 会場レイアウト（案）修正版 【当日配布】 2024 年度第3回連携推進勉強会のまとめ、同アンケートのまとめ
結 論	1. 市民啓発イベントでは、これまで話し合ってきた内容に加えて以下のような新企画を実施することとする。 －ステージの情報提供の合間にフレイル予防等に効果のある体操の実演を行う －各ブースや休憩スペースでは実演や体験のプログラムも提供する －一部のブースでは健康食品等のサンプルを来場者にプレゼントする －各職種の紹介とあわせてサンプル配布の有無が分かる資料を準備・配布する 2. 実演・体験プログラムの中で特に咀嚼チェックガムの配布と実演に関連して、万が一の事故に備えて吸引器を準備することとする。 3. サンプル配布の準備については、別途検討チームを立ち上げて相談・準備を進めることとする 4. 次年度の連携推進勉強会は以下のような仕立てで3回開催することとする。 －いつものパターンと特定の職種にスポットを当てた第1段階勉強会を各1回 －症例対応に関する第2段階勉強会を1回 －生活福祉分野との連携向上を視野に、全体に共通して「看取り（仮）」の視点を加えることを検討する

(このページは白紙です)

2 多職種協働による医療と介護の連携推進勉強会の運営支援

2-1 勉強会の開催状況

「連携推進勉強会」は、日野市及び「検討部会」が実施主体となって、医療と介護に携わる専門職同士の「顔の見える関係づくり」（第1段階勉強会）や多職種が同じ方向を向いてより良いサービスを提供できる体制づくり（第2段階勉強会）を目指して、定期的に行っているものである。勉強会の開催結果は必ずまとめを作成して情報の共有と疑問点の解消に努めているほか、閉会後には懇親会の開催が恒例となっており、これらも多職種の連携を促進する材料となっている。

- 第1段階勉強会：市内の医療と介護の関係者の「顔の見える関係づくり」の場となる勉強会
- 第2段階勉強会：具体的な症例検討等を通じた多職種協働のイメージ共有や具体的な経験を積み上げる場となる勉強会

※ この他にも、市内4つの日常生活圏域毎に地域包括支援センターが呼びかける地域の専門職間の交流や技術の向上を促す勉強会や、各職種独自の研修会や講演会等を開催している

令和6年度の連携推進勉強会は、令和5年度と同様にコロナ禍で少なくなった「顔の見える関係づくり」を主要なテーマに開催した。基本的なプログラムは同じでも、高齢者福祉以外の分野を担当する行政機関や医療・介護分野内の特定の職種との連携にスポットライトを当てるというアレンジを加えたところ、各回多くの参加者が集まり参加者からも好評を得ることができた。特に第2回勉強会では、第1回のゲスト参加が好評だったことを受けて、障害福祉分野について深掘りする第2段階の勉強会を開催している。

▼各会の開催日程等

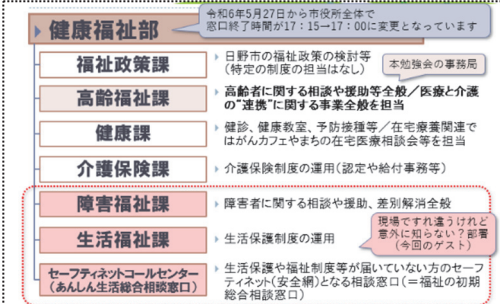
名称	日程	主催と対象
第1回 医療と介護の連携推進勉強会 【第1段階】	令和6年7月12日	主催：日野市高齢福祉課 対象：医師会、歯科医会、薬剤師会、訪問看護ステーション協議会、病院、在宅介護事業者協議会、ケアマネ協議会、地域包括支援センター連絡会の各団体※の所属事業所と市役所 ※「検討部会」に参加する8団体 ※第2段階勉強会は、原則として第1段階勉強会に参加していることが参加条件となっている
第2回 医療と介護の連携推進勉強会 【第2段階】	令和6年10月18日	
第3回 医療と介護の連携推進勉強会 【第1段階】	令和6年12月20日	

2-2 各会の内容

2-2-1 第1回医療と介護の連携推進勉強会

第1回勉強会では、市役所から生活保護や障害者福祉、福祉の総合相談窓口となるセーフティネットコールセンターの担当部署をゲストに招いて職種の垣根を越えた情報交換を行った。その内容は以下の通り。

▼開催概要_1/2

開催日時	： 令和6年7月12日（金） 19：00～21：00
開催場所	： 多摩平の森産業連携センター「PlanT」 イベントスペース
出席者	【出席者】： 関連8団体（9頁参照）に所属する参加者計42名 ゲスト4名（上記3部署より） 【事務局】： 4名（グループワーク参加者を含む）
プログラム	【情報提供】  令和6年5月27日から市役所全体で窓口終了時間が17：15～17：00に変更となっています 本勉強会の事務局 日野市の福祉政策の検討等（特定の制度の担当はなし） 高齢者に関する相談や援助等全般／医療と介護の「連携」に関する事業全般を担当 健診、健康教室、予防接種等／在宅療養関連ではがんカフェやまちの在宅医療相談会等を担当 介護保険制度の運用（認定や給付事務等） 障害者に関する相談や援助、差別解消全般 生活保護制度の運用 生活保護や福祉制度等が届いていない方のセーフティネット（安全網）となる相談窓口（＝福祉の初期総合相談窓口） ： 日野市高齢福祉課から趣旨説明 ： ゲストから各課の担当する分野や業務内容について情報提供 【グループワークの準備～自己紹介】  私の 1) 名前は… 2) 職種・所属は… 3) 「日野市との関わり」は ： まず、他職種とのお付き合いの状況を青、黄、ピンクの3色の付箋に記入 ： 付箋が書き終わったら、順番に自己紹介をしながら書いた付箋を紹介 【グループワーク】  ： 机上に並んだ付箋を見ながら気になる内容について深掘り／今回はゲストに対する質問や相談が多く出ました 【全体発表】  ： テーブル毎にどんな話が出たのかを発表／ゲストから一言コメントも貰いました

※プログラムの紹介では各回に共通する開会挨拶を省略する

▼開催概要_2/2

【障害福祉課より】

障害福祉サービス
障害者総合支援法

主なサービス

介護給付	居宅介護（ホームヘルプ） 短期入所（ショートステイ）
訓練等給付	自立訓練（機能訓練） 共同生活援助（グループホーム）

最近の主な改正

平成30年度	以下の新サービスの報酬・基準を設定 ・自立生活援助 ・居宅訪問型児童発達支援 ・補装具費の支給範囲の拡大（貸与の追加）
令和元年度	幼児教育・保育の無償化に伴い、児童発達支援（3歳～5歳）を無償化

山形市障害福祉課障害福祉部

**障害福祉サービスと
介護保険制度との適用関係**

介護保険優先の例外

1. 障害福祉サービスについて市町村が適当と認める支給量が、介護保険サービスの支給限度の制約から、介護保険のケアプラン上において確保することができない場合
2. 利用可能な介護保険サービス事業所や施設が身近にない、あっても利用定員に空きがないなど、介護保険サービスが利用困難な場合でその事情が解消するまでの間
3. 要介護認定を受けた結果、非該当と判定された場合など、介護保険サービスを利用できない場合で、障害福祉サービスの支援が必要と市町村が認めるとき

山形市障害福祉課障害福祉部

- ・障害者の方が通える場所、特に医療的ケアが必要な方が行ける場所が少ないため、介護保険の事業所で一緒にサービスを受けられたら（共生型サービス）と考えていましたが、様々なハードルがあることが分かりました。この貴重な機会を踏まえて、まずは障害分野に対する理解を広げることから始めていきます。
- ・テーブルでは“8050 問題”の話題が多く出ました。我々も日々対応に悩んでいる問題なので、皆さんと顔の見える関係を築いて一緒に進んでいけたらと思っています。

【生活福祉課より】

2. 日野市における現状

(1) 相談件数と生活保護者数等の推移

	相談	開始	人口	保護世帯	保護者数
令和元年度	942	284	186,731	2,096	2,697
令和2年度	981	315	190,598	2,171	2,726
令和3年度	842	302	187,060	2,217	2,783
令和4年度	953	331	187,180	2,277	2,831
令和5年度	1,061	353	187,617	2,332	2,866

※令和元～5年度：相談・開始件数は年度の合計数、その他数値は年度末の数値

4. 生活保護の手続き

(1) 相談から保護申請まで

モリコロネット

相談 → 制度説明、資力の確認、他法他政策の説明、急迫性の確認、その他助言等

保護申請 → 申請意思の確認

生活福祉課

調査 → 訪問調査等による実態把握、資力の調査等

保護開始の決定

- ・顔が分かる方が多く、生活保護の方には医療・介護の関係者が全て関わっていることを改めて実感しました。生活保護を受けている方には様々な問題が発生することがありますが、そんな時は遠慮なく連絡してください。

【セーフティネットコールセンターより】

セーフティネットコールセンターとは？

「格差是正」を目的に、市民のよろず相談窓口として設立
生活保護や福祉制度などで救うことの出来ない方に対し、セーフティネット（安全網）を張っていく

- 平成20年10月 健康福祉部に発足。東京都生活安定応援事業、その他生活総合相談
- 平成21年4月 自殺対策、被害者支援業務を追加
- 平成23年4月 ひとり親相談係を増設（2係制へ）
- 平成27年4月 生活困難者自立支援法施行に合わせ、自立支援係を増設
生活困難者自立支援業務及び生活保護相談業務を実施
3係体制になり現在に至る

33

セーフティネット系の業務

1. ひきこもり対策業務
2. 孤独死・孤立死対策業務
3. 犯罪被害者支援業務
4. 低所得者・離職者対策業務
5. 子どもの貧困対策に関すること
6. フードバントリー運営補助事業
7. 子どもの学習支援事業補助金

40

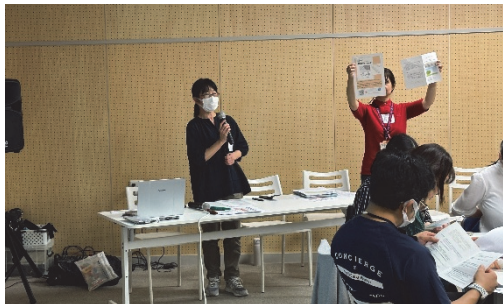
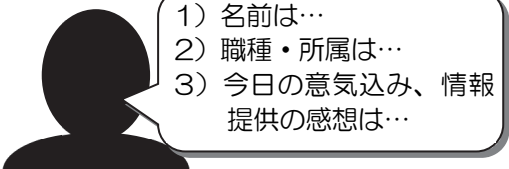
- ・日頃から連携している包括や市立病院等にほめられた一方で、その他の多くの職種にはあまり知られておらず存在感が薄いことに気がきました。
- ・何か生活に困っていただければ相談先が明確ではないという方がいる時は我々のところへ報ください。“福祉の初期総合相談窓口”として、直接対応できない内容でも、どこかにつながっていくことをご本人と一緒に考えていきます。

ゲストからの
情報提供
やコメント
の主な内容

2-2-2 第2回医療と介護の連携推進勉強会

第2回勉強会は、第1回のゲスト3分野のうち障害福祉分野との連携についてより詳しく質問・相談ができる機会として、障害福祉課、南多摩保健所、地域生活支援センターゆうきを講師に招いて開催した。その内容は以下の通り。

▼開催概要_1/2

開催日時	：令和6年10月18日（金）19：00～21：00
開催場所	：多摩平の森産業連携センター「PlanT」イベントスペース
出席者	【出席者】 ：関連8団体（9頁参照）に所属する参加者計41名 ゲスト講師9名（上記）、聴講2名 【事務局】 ：4名（グループワーク参加者を含む）
プログラム	【情報提供】   ：ゲスト講師からそれぞれの組織や制度の概要、主な事業内容について実例を交えながら情報提供 【グループワーク】 話合いの導入を兼ねた自己紹介  1) 名前は… 2) 職種・所属は… 3) 今日の意気込み、情報提供の感想は…  ：第2段階に位置づけられる今回は、自己紹介が終わったらすぐにゲスト講師への質問・相談を開始 ：出された質問や相談、これに対する回答の内容は机上の模造紙等に記録しました 【全体発表】   ：テーブル毎にどんな話が出たのかを発表 ：ゲスト講師からもグループワークの中で回答した内容や参加者へのメッセージをコメントして貰いました

※プログラムの紹介では各回に共通する開会挨拶を省略する

1. 障害福祉サービスの概要

障害福祉サービスと介護保険サービスの比較

Downloaded from <http://ajphaphysocpharm.sagepub.com/> at 11:01 11 November 2014

* 前ページに掲載するサービスの他に、日野市が事業主体となる地域生活支援事業の中で提供するサービス

- 【南多摩保健所より】

多摩地域の保健所では市町村と役割分担をして業務を行っています。



25. 請說明「誠信經營保障法」的立法目的。

- 【地域生活支援センターゆうきより】

- （２）地域生活支援センターゆうきの特徴

- ・相談支援と地域での生活やプログラム活動などの支援を一体的に、総合的にサポートし、日常的な対応、個別対応を重視した生活支援の充実などを個別に継続していくこと
- ・訪問や相談などの事例や生活支援、医療や福祉などの数値調査、時間や場所、空間の提供など（フィースペースやプログラム活用等）を個別に、包括的にサポート
- ・当事者との関係づくり、支援にかかわる方とのネットワークづくり、生活の課題や障壁の発見、対応等を考える、精神障害の方を主とした専門的なかわり
- ・ケアマネジメントを取り入れた相談支援
 （当事者が出来ることや持っている能力などを尊重し、生活のほろろきやその方の目標に



はじめに

～　こころは、お元気ですか？
「安心した豊かな気持ちをはぐくみたい」
私たちみんなの願いです。～



健康診断は、身体の健康度の確認であり、こころの健康診断はありません。

この「こころの健康ガイドブック」では、こころの健康に関する簡単な対応法と様々な相談先についてのご紹介をさせていただきます。

我慢して辛い気持ちが続いているとき、お話しをする事で、気分がほぐれるかもしれません。

健康診断のような感じで、相談機関を活用してみませんか？
お気軽にご相談いただければ幸いです。

- 13

2-2-3 第3回医療と介護の連携推進勉強会

第3回勉強会は、過去2回のような外部のゲストではなく関連8団体の中から特に要望の多かった職種の1つである訪問看護師（訪問看護ステーション協議会）に講師を依頼して、当該職種との連携についてより詳しく質問・相談ができる機会とした。その内容は以下の通り。

▼開催概要_1/2

開催日時	： 令和6年 12月 20日（金） 19：00～21：00
開催場所	： 多摩平の森産業連携センター「PlanT」 イベントスペース
出席者	【出席者】 ： 関連8団体（9頁参照）に所属する参加者計 53 名、ほか聴講 1 名 【事務局】 ： 5 名（グループワーク参加者を含む）
プログラム	【開会挨拶】  ： 日野市高齢福祉課からご挨拶 【情報提供】  ： 講師から訪問看護に関する基本的な情報の提供 【グループワーク】   ： 第1段階の位置づけながら、いつものような「他職種とのお付き合いの状況」を付箋に記入する時間は設けずに、すぐに訪問看護師さんへの質問・相談を開始 ： 出された質問や相談、これに対する回答の内容は机上の模造紙に記録しました 【全体発表】   ： テーブル毎にどんな話が出たのかを発表 ： 各テーブルの訪問看護師さんから補足説明や所属ステーションの紹介等のコメントも貰いました

▼開催概要_2/2

講師からの
情報提供
やコメント
の主な内容

【情報提供】

本日の内容

1. 訪問看護とは
2. 訪問看護は何をするの？
3. 訪問看護が大切にしていること



1. 訪問看護とは



「疾病や障害があり、居宅で継続して療養する必要がある方が受けられる看護サービス」と厚生労働省が定義
利用者の継続的自立生活や心身機能の維持・回復が主な目的

主治医の指示に基づいて、地域の訪問看護ステーションから看護師や理学療法士などが派遣され、医療的ケアが行われる。

2. 訪問看護サービスの内容



- ・病状、障害の観察
- ・清拭、洗髪等による清潔の保持
- ・食事及び排泄等日常生活の世話
- ・褥瘡の予防、処置
- ・リハビリテーション
- ・ターミナルケア
- ・認知症患者の看護
- ・療養生活や介護方法の指導
- ・カテーテルの管理
- ・永眠時のケア
- ・その他医師の指導による医療処置 など



訪問介護との違い



- ・「医療行為を行えるかどうか」という点が明確に異なる。
- ・訪問介護は行うことができません。
- ・利用できる保険が異なる
- ・訪問看護は
医療保険または介護保険で利用できるサービスで、
介護保険の対象ではない乳幼児や64歳以下の方も利用可能。
- ・訪問介護は
介護保険内のサービスであり、基本的には介護認定を受けている方だけが対象

訪問看護が大切にしていること①



利用者・家族とじっくり関われる

- ・利用者さんや家族と一対一でしっかりと関われることができる
- ・利用者やその家族とじっくり関われることができる

訪問看護が大切にしていること②



利用者の思いや希望に寄り添い
人生の伴走者として

- ・オーダーメイドの看護
- ・知恵と想像力で型通りではない本人に寄り添った看護
- ・利用者の「どうしたい」「どう生きたい」によって看護
- ・利用者さん、ご家族の人生の一部に少し強弱に目やない（協力）ようにサポートしている
- ・利用者さんが望む生活を送る看護
- ・一層にいい人といいい場所まで人生最後の期間まで過ごせるようにサポートしている
- ・利用者や家族の価値観を大切に「どう生きたいか」を大切に意思決定を支援している

【質問・相談とその回答（一部抜粋）】

訪問看護に入ってもらう方法は？どうやってお願いすれば良いの？

主治医の先生が書いた指示書に従って、ケアマネを通じて依頼が入る。
ステーションに直接連絡をしてもらうやり方でも可。

医療保険と介護保険を併用するケースはあるの？

どちらか片方だけを利用するのが原則。介護保険を使っている方は介護保険を利用することになるが、特別指示書（短期の治療）で入る場合のみ例外的な対応となる。

【コメント】

- ・皆さんがこんなにも訪問看護に関心があるんだということを知り、良い職業を見つけて本当に良かったと感じています。
- ・実は若い看護師は多職種連携が苦手なんです。お薬見たり、肝臓を見たり、口の中を見たり…は上手でも、他職種とのコミュニケーションが不慣れなため、伝えたいことを足早に伝えようとする様子が威圧的に感じることもあるかも知れません。
- ・ありがたいことに、今、大学を出てすぐの看護師さんたちも訪問看護師として地域に出てきているので、広い心で若い人たちを育ててもらって、日野に貢献させてください。

(このページは白紙です)

3 地域住民への普及啓発の実施支援

3-1 作業の概要

日野市では、地域住民に対して様々な方法で在宅療養に関する基礎情報や日野市の在宅療養環境に関する普及啓発を行っている。

特に平成29年度から開催しているイベント「ひの在宅医療・介護サービスフェア」は中心的な取組で、コロナ禍の中断期間を挟んで令和5年度までに計3回のイベントを開催している。コロナ禍には、イベントの代わりにリーフレット「日野市在宅療養ガイドブック」や「日野市在宅療養ガイドブック（導入イメージ紹介編）」、在宅療養の様子を伝える動画コンテンツ等の普及啓発ツールの拡充を図っている。

令和6年度に実施した「第4回ひの在宅医療・介護サービスフェア」では、将来介護者となるような若い世代へのアプローチを強化するべく講演等の内容の見直しや新しい企画の導入、周知先の拡大などを行ったほか、その検討にあたってはオブザーバーを加えるなど体制面でも新しい取組を行っている。

こうした取組の結果として、イベント当日は過去最多となる241名の来場者を迎えるほど大盛況となった。来場者や運営側で参加した多職種を対象に実施したアンケートでは、イベントに対する評価がとても高く、また若い世代へのアプローチとして企画・実行した新しい企画等についても好意的な意見が多いことから、当初の狙いは概ね達成することができたと言える。

▼イベントの開催概要（チラシ）

第4回
ひの在宅医療・介護サービスフェア

申込不要
入場無料

入退場自由
手話通訳あり

日程 2025年2月9日(日)

時間 13時~16時
(12時半開場)

会場 イオンホール
(イオンモール多摩平の森3階)

介護保険の利用の仕方が分らない!!
まだ元気だけど…
先のことも考えておきたい
いつどのように準備を
始めるべき?

親のことが心配!!
仕事と親の介護を
両立できるかも心配!
どこに相談
すれば良いの?

**ご自身やご家族のこれからについて医療、
介護の専門家に話を聞いてみませんか?**

な 自宅で医療や介護を受けながら生活することを「在宅療養」と言います。
な 「可能な限り 住み慣れた我が家で、自分らしく生活したい」という希望を
かなえる「在宅療養」のあれこれについてご紹介します。
な これだけの情報を一度に得られる機会はなかなかありません。是非、会場へ
お越しください!

主 催：日野市高齢福祉課（☎042-514-8496）
後 援：日野市在宅医療推進協議会
日野市医師会、東京和生会日野支部、日野市薬剤師会、日野市訪問看護ステーション協議会
日野市医師会、日野市在宅医療推進協議会、おのケアマネジメント協会、日野市社会福祉協議会
協 賛：カ、大塚製薬、株式会社ヘルシーネットワーク、ユニカミノリ株式会社、日野市社会福祉協議会、
50の国、ひのリハビリテーションネットワーク、ひまわり会、南多摩地域医療士協議会、日野地域 他

**お問合せは
こちらまで**

～プログラム詳細～

多くの方に共通する基本的情報をステージから紹介する前半、各参加者が興
味のあるブースを回って知りたい情報を得られる後半の2部構成で開催します。

前半 (13時~) **在宅療養の基本を知ろう!**
(60分程度/先着100名程度)

「在宅療養」を始めるために必要な手続きや関連する制
度、自宅で受けられるサービスの具体的な内容等につい
て、日野市内で医療・介護に携わる専門職の方々が実際
の様子などを交えて分かりやすくご紹介いたします。
質疑応答の時間も設ける予定です。

席数に限りがあるため「先着100名程度」としていますが、立ち見は人数の制限がありません。

後半 (14時半頃~) **気になるフースを回って理解を
深めよう! 疑問を解消しよう!**

以下のような様々な職種・団体がそれぞれブースを構え
て皆さまの質問にお答えします!
各ブースでは、他にも気になるチラシ・パンフレットを
もらったり、介護ベッド等の福祉用具が体験できたり、
簡単な検査が受けられたりと役立つ情報が盛り沢山にな
る予定です。試供品等のプレゼントもあります!

参加予定の専門職(質問や体験ができるブースを設置予定の方々)
○医 療：医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護師、市立病院(在宅療養推進室・在宅療養支援センター)
○介 護：ケアマネジャー、介護サービス事業所、地域包括支援センター
(ヘルパー・デイサービス等)
○その他：リハビリ職(理学療法士、作業療法士等)、管理栄養士、社会福祉協議会 など

残念ながら会場に来られない方へ

「在宅療養」に関連した情報は以下でも紹介しています。WEBページ「在宅療養につ
いて」にはイベントの開催報告も掲載する予定です。是非ご覧ください。

「在宅療養について」
[PDFダウンロード]

「在宅療養に関するガイドブック」
[PDFダウンロード]

「在宅療養に関するガイドブック」
[PDFダウンロード]

※ 関係の「在宅療養」の様子を紹介する動画等の掲載を希望しています。

3-2 イベントの開催結果

3-2-1 具体的な実施内容

イベントの内容は以下の通りである。

▼開催概要 1/2

タイトル	：第4回 ひの在宅医療・介護サービスフェア
開催日時	：令和7年2月9日（日） 13:00～16:00
開催場所	：イオンモール多摩平の森3階 イオンホール
来訪者	：241人（子ども59人を含む）、関係者84人
プログラム （前半）	【前半：在宅療養の基本を知ろう！（～14時30分頃）】 ：「検討部会」委員が登壇して、「要介護Xの医療と介護」「サービス利用のはじまり」という2つの場面について講演とパネルディスカッションを実施 ：まず講演では、来場者の方々にこれだけは知っていただきたいという情報を紹介 ：その後のパネルディスカッションでは、関係する職種がそれぞれの役割を紹介しながら補足的な情報を紹介 「要介護Xの医療と介護」に関する講演とパネルディスカッションの様子 「サービス利用のはじまり」に関する講演とパネルディスカッションの様子 ：2つの場面について講演とパネルディスカッションを実施した後は会場から質問を募って質疑応答を実施 ：質問を収集している時間を利用して、話を聞いている間に固まった体をほぐす簡単な体操を紹介し、登壇者と来場者が一緒に体験する機会を確保 質疑応答の様子 体操を行う様子

▼開催概要 2/2

【後半：気になるブースを回って理解を深めよう！疑問を解消しよう！（14時30分頃～）】

- ：以下に示す15の職種・団体が来訪者の質問に答えるがブースを設置
- ：他にも、チラシ・パンフレットをもらったり、介護ベッド等の福祉用具が体験できたり、簡単な検査が受けられたりと役立つ情報が盛り沢山です。在宅での療養生活を支える職種がそれぞれの仕事内容の紹介するパネルの展示や個別の相談を受け付けるブースを設置
- ：その他、在宅療養に欠かせない介護用品の展示や体験、管理栄養士による介護食の紹介や栄養相談を行うコーナー等も設置



相談を行う様子



展示を見ながら相談を行う様子



福祉用具の展示・体験の様子



休憩スペースを利用した実演コーナーの様子

プログラム (後半)

イベントの後半(14時半頃～)は、こちらの地図を見ながらお目当てのブースを覗いてみてください！

会場案内図

1 病院

ソーシャルワーカー(福祉の専門職)や看護師が病院のことや在宅療養に関することについてお答えしますので、お気軽にお聞きください。

2 医師

「訪問診療」を行う医師が常駐しています。どんなことができるかを紹介するパネルも展示していますので、気軽にお立ち寄りください。

3 訪問看護師(訪問看護ステーション)

看護師がご自宅に何う訪問看護を知っていますか？その人らしさを支える訪問看護師とちょっと話をしてみませんか？

4 薬剤師

かかりつけの薬剤師を持ちましょう！！薬局で、ご自宅で、薬剤師が薬の使用をお手伝いします。

5 歯科医師

お口の健康は全身の健康にもつながります。歯科医がご自宅を訪問する「歯科訪問診療」について、「食べる」「飲み込む」機能が低下するオーラルフレイルの予防方法についてご紹介します。

6 栄養士・管理栄養士

配食弁当の見本を複数展示しています。コメダ珈琲が出している「飲みこみ」のサンプルも配布しています。在宅でのお食事のお困り事があればお立ち寄りください。

13 休憩スペース

ブースを回るのが疲れたらこちらで休憩していただくことができます。時間限定でAEDの実演等も行います。

14 福祉用具

見て、聴いて、体験して！小さなコから大きなコまで、何でもご相談ください！

15 リハビリ(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)

在宅でのリハビリってどんなことをするの？病院との違いは？老健ってどんなところ？リハビリに携わる3職種が皆さんをお迎えします。

16 コニカミルタ株式会社

介護施設向け商品をご紹介します。在宅向けの商品も検討していますので、商品に触れご意見を聞かせください。

各ブースの色は、■医療職 ■介護職 ■その他を表します。緑枠(緑)のついたブースでは、在宅療養生活や健康づくりに役立つグッズ(試供品)をプレゼントします。

7 地域包括支援センター

地域の高齢者の方々のためのよろず相談所です。困り事や心配事があるときは「とりあえず包括」へ！

8 ケアマネジャー(介護支援専門員)

ご自身や両親、身の回りの気になる方の介護度はどのくらい？介護認定の体験をしてみませんか？介護のことならケアマネジャーに何でもお聞きください！

9 介護サービス事業所(ヘルパー・デイサービス等)

ヘルパーやデイサービスってどんなことをしてくれるの？どんなところ？お困りことがある方は気軽にお立ち寄りください。

10 社会福祉協議会

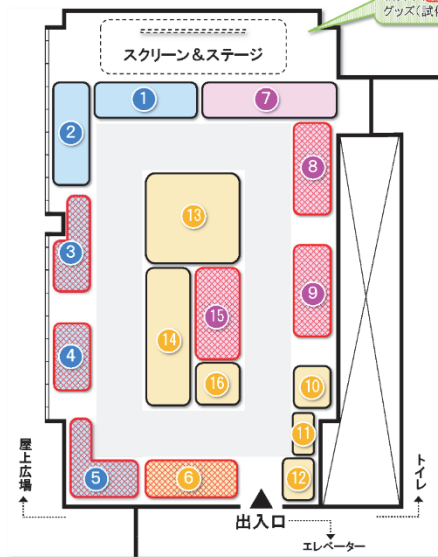
地域のお困りごとやボランティアなどについてご相談があればお立ち寄りください！

11 日野市

「可能な限り 住み慣れた我が家で、自分らしく生活したい」という希望をかなえるのが「在宅療養」です！本紙裏面に掲載したお役立ち情報もぜひご覧ください。

12 受付

今回のイベントに関する困り事等はこちらまで、お帰りの際はアンケートの提出にご協力をお願いします。

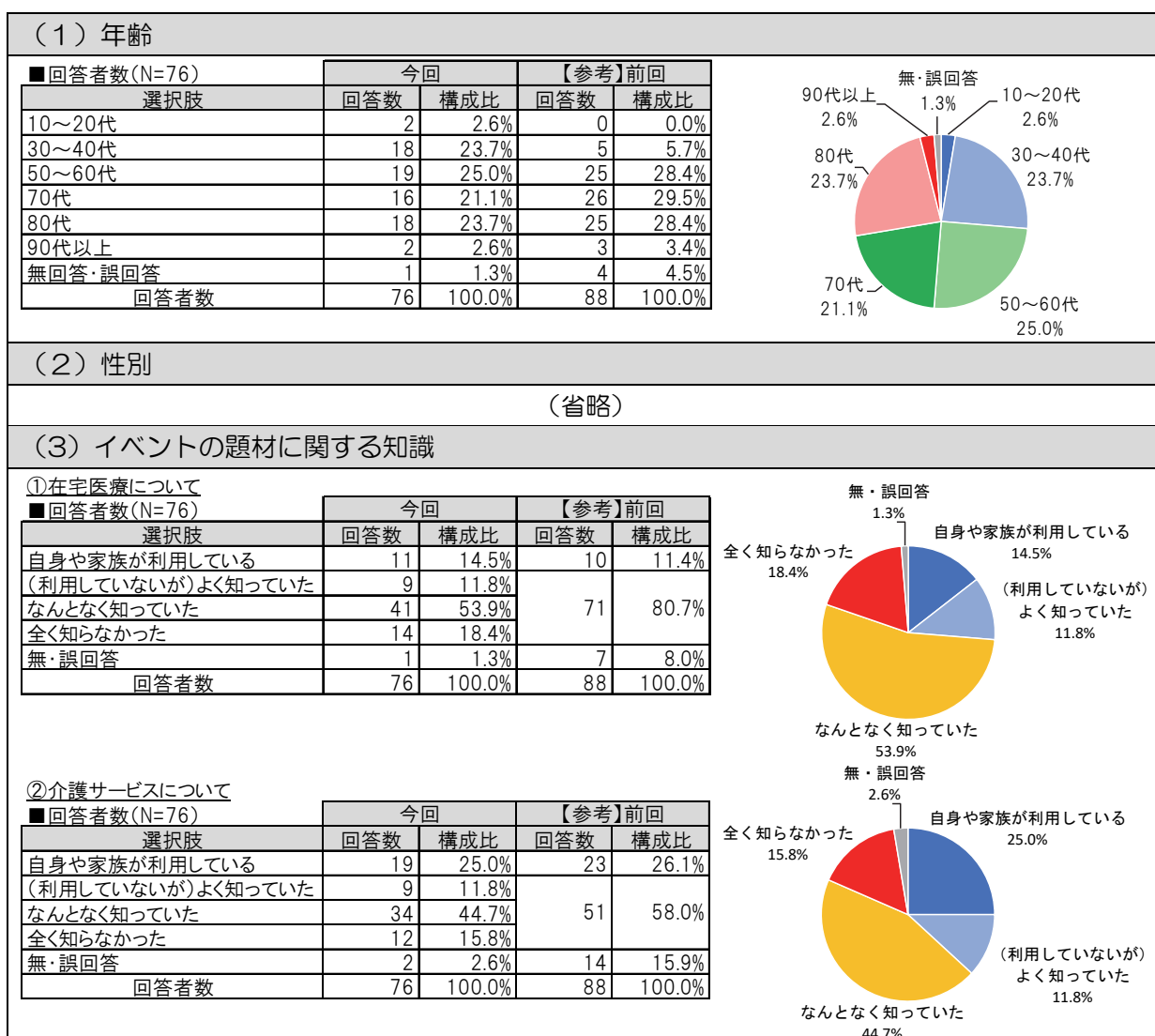


3-2-2 市民の声

イベント来場者には、イベントの感想や今後の要望等を尋ねるアンケートを配付し、会場出口で回収した。全241人の来場者のうち76人から回収したアンケート結果の概要は以下に示す通り。

▼問1 回答者の属性

- 年齢は、30～40代、50～60代、70代、80代がほぼ同数で、前年度に比べて30～40代の割合が大きく増加している。
- 性別は、男女比はおよそ1：2で前年度とほぼ同じような傾向となっている。
- イベントの題材に関する知識は、在宅医療と介護サービスそれぞれ同程度の方がほとんどとなっている。
- 在宅医療と介護サービスの両方を「なんとなく知っていた」方が32名、「全く知らなかった」方が10名、さらに介護サービスを「利用している」が在宅医療は「なんとなく知っていた」という人が7名で、“比較的元気なうちから必要なサービスを導入するイメージを持てるような情報提供を行う”という狙いに合致した人が多く来訪している。



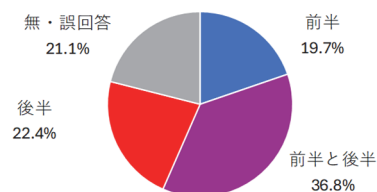
▼問2 イベントの評価 1/2 (イベントの感想等)

- 参加時間帯は、前半と後半続けて参加した方、後半だけ参加した方、前半だけ参加した方の順に多く、年齢が高いほど「前半」だけ、低いほど「後半」だけ参加する方が多くなった。
- イベントの内容や雰囲気等に対する評価はとても高い。特に年齢が高い「80代」「90代以上」の方、その子世代にあたる「50～60代」の方からの評価が高くなっており、必要性が高い方に必要な情報をうまく届けることができたと捉えることができる。
- ただし、話の聞きやすさについては「80代」「90代」で少し評価が下がっており、自由記述で2件記載のあった「マイクの音が良くなかった」ことが影響していると推察される。
- 参加して良かったと思うところでは、「在宅療養のイメージが良く分かった」が特に多い。
- その他の選択肢については、「展示や実現、体験」を除きおおそ同数程度となっているが、年代別に見ると以下のような傾向が見られる。
 - －「介護サービスの始め方」は、年齢が高くなるほど選ぶ方が多い
 - －前述の「80代」「90代以上」「50～60代」では、「その他の知りたい話」「在宅療養に関する各種の資料」を選ぶ方も多い
 - －「30～40代」では「在宅療養のイメージが良く分かった」よりも「役立つグッズ（試供品）」「展示や実演、体験」を選ぶ方が多い

(1) 前半・後半のどちらに参加したか

■回答者数(N=76)

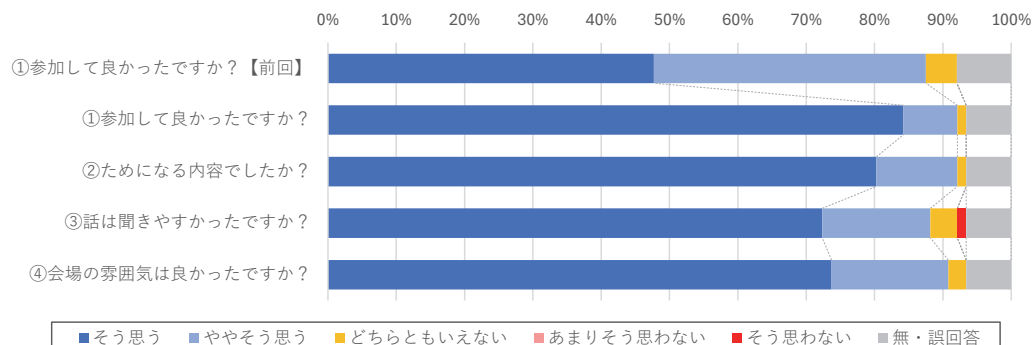
■回答者数(N=76)		
選択肢	回答数	構成比
前半	15	19.7%
前半と後半	28	36.8%
後半	17	22.4%
無・誤回答	16	21.1%
回答者数	76	100.0%



(2) イベントに対する評価

■回答者数(N=71)

選択肢		そう思う	ややそう 思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	無・誤回 答	合計
評価対象(実施内容)								
①参加して良かったですか【前回】	回答数	42	35	4	0	0	7	81
	構成比	51.9%	43.2%	4.9%	0.0%	0.0%	8.6%	100.0%
①参加して良かったですか	回答数	64	6	1	0	0	5	71
	構成比	90.1%	8.5%	1.4%	0.0%	0.0%	7.0%	100.0%
②ためになる内容でしたか	回答数	61	9	1	0	0	5	71
	構成比	85.9%	12.7%	1.4%	0.0%	0.0%	7.0%	100.0%
③話は聞きやすかったですか	回答数	55	12	3	0	1	5	71
	構成比	77.5%	16.9%	4.2%	0.0%	1.4%	7.0%	100.0%
④会場の雰囲気は良かったですか	回答数	56	13	2	0	0	5	71
	構成比	78.9%	18.3%	2.8%	0.0%	0.0%	7.0%	100.0%



(次ページに続く)

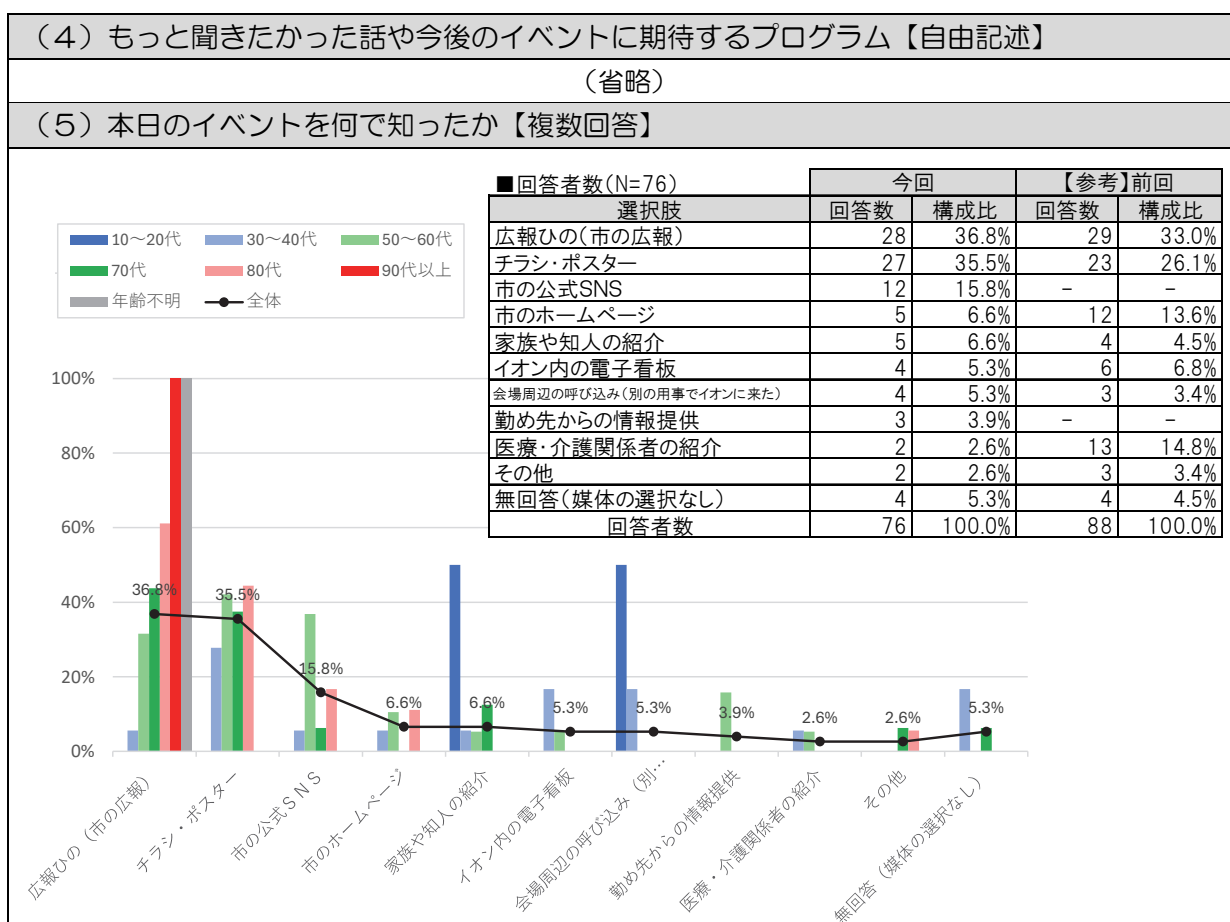
(次ページからの続き)

(3) 参加して良かったと思うところ【複数回答】



▼問2 イベントの評価 2/2 (今後のヒント)

- もっと聞きたかった話や今後のイベントに期待するプログラムをたずねる質問では、「費用」や「介護用品や福祉用具（お勧めのグッズ）」「通所介護に関する詳しい説明（デイケアとデイサービスの違い）」「介護保健施設に関する説明（老健や特養）」など、基本的な情報を知った後にちょっと知りたいことがあげられている。
- イベントを知った媒体は、「広報ひの」「チラシ・ポスター」、次いで「市の公式SNS」が多く、その他の選択肢は少なくなっている。
 - ー「広報ひの」は、最も多く回答者が選んでいるが、年齢が高いほど選択が多く「30～40代」以下にはほとんど届いていない
 - ー配布先を変更した「チラシ・ポスター」は、年齢的な偏りが少なく幅広い年代（特に30～40代）に届いており、回答が前年度よりも10ポイント近く増加している
 - ー「50～60代」は、これらに加えて「市の公式SNS」や「勤務先からの情報提供」も多く回答している



3-2-3 関係者の声

運営側で参加した多職種を対象にイベントの評価をたずねるアンケートを実施し、12職種21件から回答を得た。回収したアンケート結果の概要は以下に示す通り。

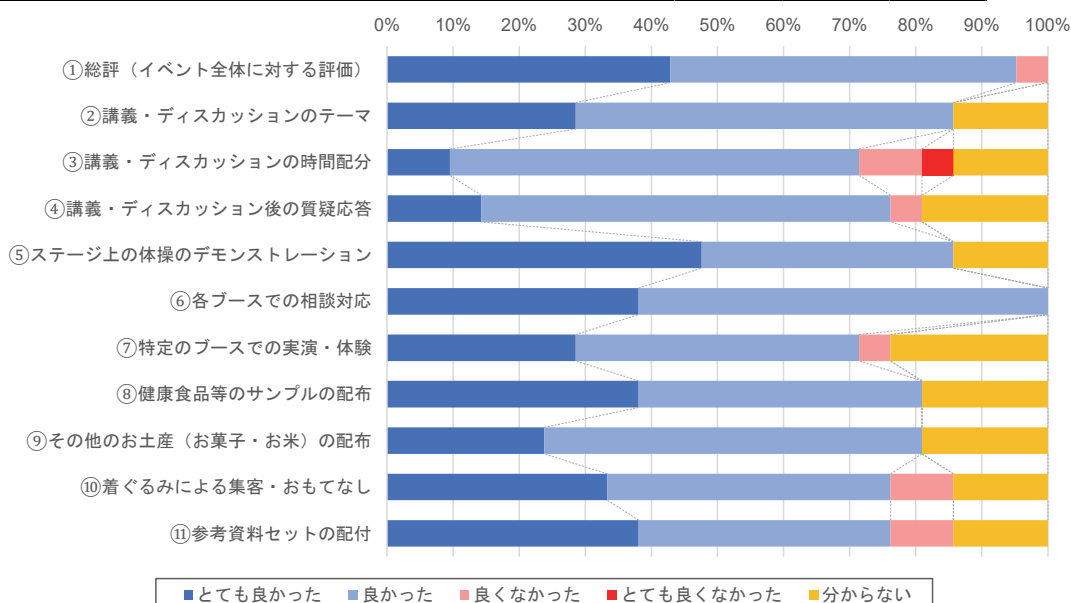
▼1 イベントの内容について

- 各項目とも「とても良かった」「良かった」が多く、多くの市民や多くの出展者が集まって相談対応や資料の配布等ができたこと、さらに若い世代へアプローチや今までとは異なる角度からの情報提供、体操等の新しい取組ができたことが評価されている。
- 自由記述では、特に③講義・ディスカッションの時間配分（もっと短く等）や、⑨お土産の配付や⑩着ぐるみの集客・おもて等について改善点の指摘があげられている。
- 第1部の開催方法や内容や若い世代への働きかけの方策、第2部の各ブースの構え方や案内の仕方、会場のレイアウトやオペレーションについて具体的な改善提案もあげられている。

（１）実施内容に対する評価

■回答者数(N=21)

選択肢 評価対象(実施内容)		とても良かった	良かった	良くなかった	とても良く なかった	分らない	合計
①総評(イベント全体に対する評価)	回答数	9	11	1	0	0	21
	構成比	42.9%	52.4%	4.8%	0.0%	0.0%	100.0%
②講義・ディスカッションのテーマ	回答数	6	12	0	0	3	21
	構成比	28.6%	57.1%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%
③講義・ディスカッションの時間配分	回答数	2	13	2	1	3	21
	構成比	9.5%	61.9%	9.5%	4.8%	14.3%	100.0%
④講義・ディスカッション後の質疑応答	回答数	3	13	1	0	4	21
	構成比	14.3%	61.9%	4.8%	0.0%	19.0%	100.0%
⑤ステージ上の体操のデモンストレーション	回答数	10	8	0	0	3	21
	構成比	47.6%	38.1%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%
⑥各ブースでの相談対応	回答数	8	13	0	0	0	21
	構成比	38.1%	61.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
⑦特定のブースでの実演・体験	回答数	6	9	1	0	5	21
	構成比	28.6%	42.9%	4.8%	0.0%	23.8%	100.0%
⑧健康食品等のサンプルの配布	回答数	8	9	0	0	4	21
	構成比	38.1%	42.9%	0.0%	0.0%	19.0%	100.0%
⑨その他のお土産(お菓子・お米)の配布	回答数	5	12	0	0	4	21
	構成比	23.8%	57.1%	0.0%	0.0%	19.0%	100.0%
⑩着ぐるみによる集客・おもてなし	回答数	7	9	2	0	3	21
	構成比	33.3%	42.9%	9.5%	0.0%	14.3%	100.0%
⑪参考資料セットの配付	回答数	8	8	2	0	3	21
	構成比	38.1%	38.1%	9.5%	0.0%	14.3%	100.0%



▼2 イベントの集客について

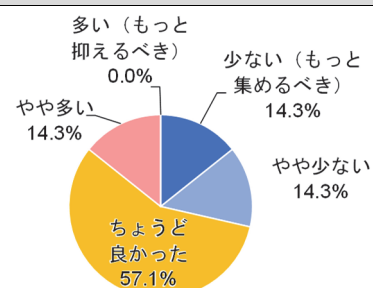
- 来場者数については、「少ない」から「やや多い」まで評価は様々だが、「ちょうど良かった」が過半数を占めており、今のままかできればもう少し増やしたいというのが関係者のおおよその感想だと言えそう
- 客層については、「(やや) 高齢者が多い」があわせて過半数を占める。「ちょうど良かった」も4割強で、若い世代にアプローチできたことを評価しつつ、この方向性をさらに推し進めることが期待されている様子が見えてくる。
- 会場全体の雰囲気・混雑度については、「ややゴチャゴチャだった」が過半数を占め、「ゴチャゴチャだった(混みすぎ)」とあわせて7割超を占める。特に第1部終了時の会場転換や第2部開始直後の混雑が課題となっている。
- 今後の取組については、会場レイアウト、子世代へのアプローチ、来訪者への情報の伝え方等の改善を求める声が多く、それぞれについて具体的な改善案もあげられている。

(1) 来場者数等に関する評価

①来場者数

■回答者数(N=21)

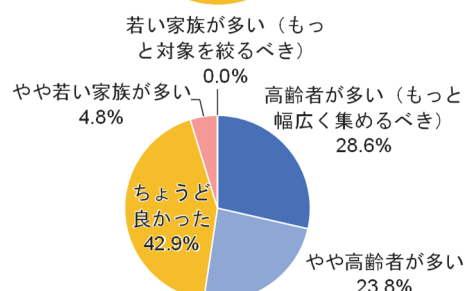
選択肢	回答数	構成比
少ない(もっと集めるべき)	3	14.3%
やや少ない	3	14.3%
ちょうど良かった	12	57.1%
やや多い	3	14.3%
多い(もっと抑えるべき)	0	0.0%
回答者数	21	100.0%



②客層

■回答者数(N=21)

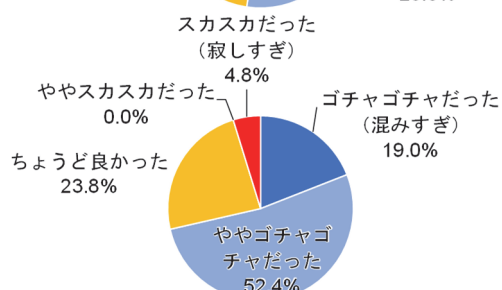
選択肢	回答数	構成比
高齢者が多い(もっと幅広く集めるべき)	6	28.6%
やや高齢者が多い	5	23.8%
ちょうど良かった	9	42.9%
やや若い家族が多い	1	4.8%
若い家族が多い(もっと対象を絞るべき)	0	0.0%
回答者数	21	100.0%



③会場全体の雰囲気・混雑度

■回答者数(N=21)

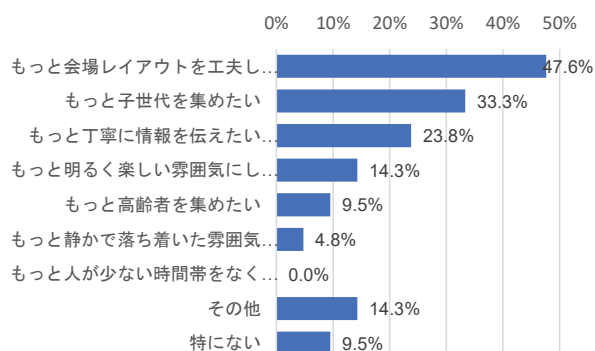
選択肢	回答数	構成比
ゴチャゴチャだった(混みすぎ)	4	19.0%
ややゴチャゴチャだった	11	52.4%
ちょうど良かった	5	23.8%
ややスカスカだった	0	0.0%
スカスカだった(寂しすぎ)	1	4.8%
回答者数	21	100.0%



(2) 今後の取組の方向性について

■回答者数(N=21)

選択肢	回答数	構成比
もっと会場レイアウトを工夫したい	10	47.6%
もっと子世代を集めたい	7	33.3%
もっと丁寧に情報を伝えたい(人数は無理に増やさなくて良い)	5	23.8%
もっと明るく楽しい雰囲気にしたい	3	14.3%
もっと高齢者を集めたい	2	9.5%
もっと静かで落ち着いた雰囲気にしたい	1	4.8%
もっと人が少ない時間帯をなくしたい	0	0.0%
その他	3	14.3%
特になし	2	9.5%
回答者数	21	100.0%



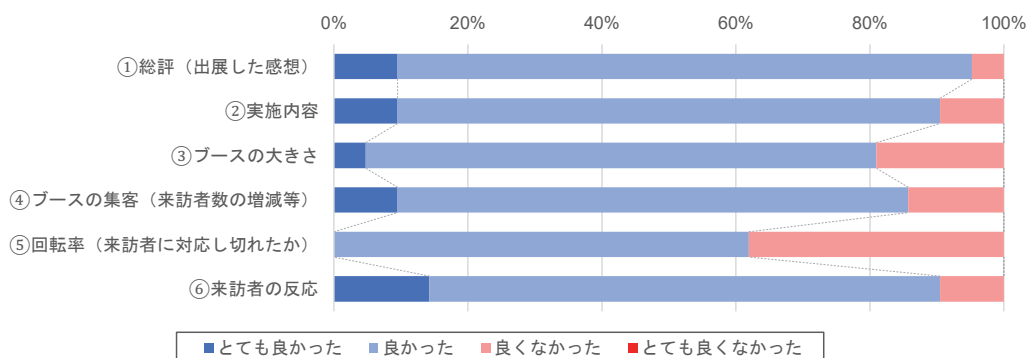
▼3 ブースの運営や準備について

- 他の設問に比べると「とても良かった」がやや少なく、全体的に「良かった」が多い。
- 最も「良くなかった」が多い⑤回転率については、「混雑時に対応しきれなかった」「1件あたりの相談に時間がかかった」等が理由としてあげられている。
- 事前準備の負担感については「ちょうど良かった」が多いが、サンプルの手配等の事前準備や、会場の設営及び運営に関わる職種で「やや大きかった」等を選ぶ傾向が見られる。
- 「ちょうど良かった」と答えた方からも、継続して参加・協力するために必要な取組として「企画検討に参加する」「駐車場の手配・案内を強化する」ことがあげられている。

(1) 自ブースの取組に対する手応え

■回答者数(N=21)

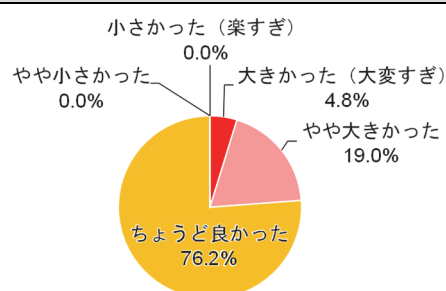
評価対象(実施内容)		選択肢				合計
		とても良かった	良かった	良くなかった	とても良くなかった	
①総評(出展した感想)	回答数	2	18	1	0	21
	構成比	9.5%	85.7%	4.8%	0.0%	100.0%
②実施内容	回答数	2	17	2	0	21
	構成比	9.5%	81.0%	9.5%	0.0%	100.0%
③ブースの大きさ	回答数	1	16	4	0	21
	構成比	4.8%	76.2%	19.0%	0.0%	100.0%
④ブースの集客(来訪者数の増減等)	回答数	2	16	3	0	21
	構成比	9.5%	76.2%	14.3%	0.0%	100.0%
⑤回転率(来訪者に対応し切れたか)	回答数	0	13	8	0	21
	構成比	0.0%	61.9%	38.1%	0.0%	100.0%
⑥来訪者の反応	回答数	3	16	2	0	21
	構成比	14.3%	76.2%	9.5%	0.0%	100.0%



(2) 事前準備～搬入・設営の負担感

■回答者数(N=21)

選択肢	回答数	構成比
大きかった(大変すぎ)	1	4.8%
やや大きかった	4	19.0%
ちょうど良かった	16	76.2%
やや小さかった	0	0.0%
小さかった(楽すぎ)	0	0.0%
回答者数	21	100.0%



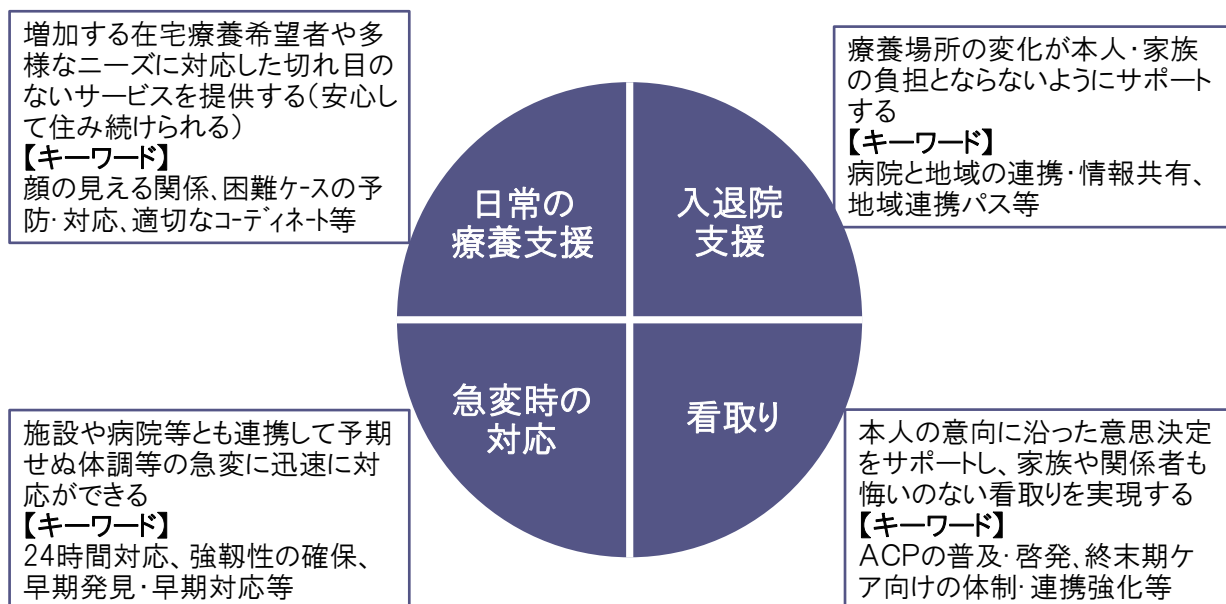
4 多職種連携ルールの更新

4-1 作業の概要

日野市では、医療・介護の関係機関の連絡先や多職種間での基本的な連絡の仕方、連絡用の書式をまとめた「多職種連携ガイド」を平成26年4月に作成している。令和元年度（平成31年度）には、「顔の見える関係づくり」で築いた繋がりを実務に活かしやすいよう、連絡方法や希望する時間帯、提供すべき情報等の望ましい連絡の取り方を職種別にまとめた「エチケット集（暫定版）」を作成し、内容の更新・拡充を図っている。

令和6年度は、在宅医療と介護連携における4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）の検討に着手したのにあわせて、この内容をルール化する／ルールに反映する前段として、現在の取組、ルール化等によって達成すべき目標や解決すべき課題について整理する作業を進めた。

▼4つの場面に対応した課題のイメージ（第1回検討部会提出資料より）



4-2 ルールの更新内容

「在宅医療・介護連携推進事業の手引き」の内容を踏まえて、現状分析や施策立案（叩き台）を行った。

現状分析については、これまで検討部会で言及があった課題やテーマを、施策立案については既存の取組等を含めて記載している。

これらの内容については、今後検討を進める中で適宜見直しを行う可能性がある。

▼ルール化に先立つ課題整理等_①日常の療養支援に関する内容

1. 目標設定 ※以降の検討内容を適宜フィードバックしながら最終案を決定する

目指す姿 (仮)	医療・介護関係者の多職種協働によって患者・利用者・家族の日常の療養生活を支援することで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が住み慣れた場所で生活が出来るようにする。 →増加する在宅療養希望者や多様化するニーズに対応した切れ目のないサービスを提供する (安心して住み続けられるまちづくり)
-------------	--

2. 現状分析 ※1の内容を達成するために欠かせない視点を設定し、施策立案の手がかりとなる分析を行う

no.	視点／キーワード	該当分野を取り巻く状況
1	自立期（元気）から、人生の最終段階（終末期）までを支える切れ目のない医療・介護サービスの提供が必要 多職種連携、医療・介護資源の確保、業務効率化、BCP	・連携ガイド ・相談窓口 ・各職種団体による人材の確保等
2	生活の質を上げる支援、社会的な要因を含めたサポートが必要 多職種連携、顔の見える関係、生活モデル	・連携推進勉強会、研修会 ・連携シート、連携ガイド ・地域ケア会議
3	特に高齢者特有の疾病や困難ケース等に対する予防や再発防止といった対応が必要 困難ケースの予防・対応、適切なコーディネート	・勉強会や研修会、スーパーバイザーによる助言や指導 ・市民に対する相談窓口、在宅療養ガイドブック、市民啓発イベント等

3. 施策立案 ※2の分析から課題やその要因を抽出し、これに対応するための施策（案）を検討する

no.	主な課題やその要因	課題を解決するための施策（案）
1-①	人材の確保が困難だという声がある 特に創設から20～30年経過した包括（旧在支）やケアマネジャーの世代交代が進み、地域の対応力が低下することが懸念されている	資源の適切な把握と拡大 →相談窓口の設置 →多職種連携ガイドの更新 →市内事業所に対するオンライン対応やICT活用等の側面支援
1-②	大規模な災害が発生した際に、特に医療依存度の高い方への対応を事前に検討しておく必要があることが明らかになっている	BCPの作成と実践 →対応会議の開催
2-①	各所で開催される勉強会や地域ケア会議に参加する職種が限られている	連携の輪の拡大 →勉強会等の開催情報の発信強化
2-②	特に外来受診をしている方（介護保険利用）のサポートや、こうした方の外来から訪問への移行が難しいという声がある	外来との連携の強化 →外来との連携をテーマにした勉強会等の企画・開催
3-①	介護保険の申請を知らない方、まだ大丈夫と考えている方が、大変な状況になってからサービスにつながるケースが見られる	在宅療養に関する普及啓発 →市民啓発の実施（強化）
3-②	健康寿命の延伸に向けて、予防型の取組が重要になっている	困難事例の対応力の強化 →勉強会、研修会等の開催 →口腔ケア・栄養管理等の充実

▼ルール化に先立つ課題整理等_②入退院支援に関する内容

1. 目標設定 ※以降の検討内容を適宜フィードバックしながら最終案を決定する

目指す姿 (仮)	入退院の際に、医療機関、介護事業所等が協働・情報共有を行うことで、一体的でスムーズな医療・介護サービスが提供され、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、希望する場所で望む日常生活が過ごせるようにする。 →重大な病気や怪我をした場合でも、適切な治療を受け、退院後には以前と同様の生活を行うことができる (本人や家族の「自宅に帰りたい」という希望を叶える／「自宅に帰れるだろうか」という不安を解消する)
-------------	--

2. 現状分析 ※1の内容を達成するために欠かせない視点を設定し、施策立案の手がかりとなる分析を行う

no.	視点／キーワード	該当分野を取り巻く状況
1	医療の効率的な提供を推進する観点から入院期間の短縮が進められており、入院時から生活上のリスク等を把握し、退院後を見据えた入院計画を策定することが必要 PFM（ペーシェント・フロー・マネジメント）、退院支援・調整	・市では、「連携シート（入退院用）」を作成し、病院と地域の情報共有を支援している
2	地域と病院が連携して退院後の療養生活について必要な支援を進めることが必要 退院支援カンファレンス	・病院では、患者総合支援室を中心に退院支援カンファレンス等を開催して、退院に向けた計画・調整を行っている
3	環境の変化で混乱する患者本人や家族に対して、今後の対応について適切に判断できるような情報提供や支援を行うことが必要 患者や家族に対する入退院支援	・市では、「在宅療養ガイドブック」を発行している ・病院では、患者総合支援室（／在宅療養高齢者支援窓口）等を設置して、入院や退院・転院等の相談を行っている

3. 施策立案 ※2の分析から課題やその要因を抽出し、これに対応するための施策（案）を検討する

no.	主な課題やその要因	課題を解決するための施策（案）
1	連携シートの認知度が低く、また独自のシートを作成している事業所内もあるため、連携シートを活用した情報共有は一部で行われるに留まっている	連携シート等による入退院時の情報共有のさらなる効率化 →連携シートの普及・啓発 →ICTツール等の活用促進（MCS）
2-①	病院、地域の関係者が多忙な中で、退院支援カンファレンス等の開催が困難で、急な受入準備を迫られるケースや在宅に戻るのが困難と判断されるケースが存在する	病院と地域の連携強化 →入退院ルールの整理 →特定の疾患等に関する地域連携クリティカルパスの作成 患者の回復や地域の体制づくりを進めるための時間の確保 →直接自宅に戻れない方の入院・入所場所の拡充（ポストアキュート）
2-②	特に市外の病院とは統一的に関わる機会がないため顔の見える関係を築くのが困難で、連携が取りづらい（急に「〇日後に退院」という連絡が入る等）という声がある	市外の病院との関係構築・連携強化 →市相談窓口を中心とした連絡会の開催（近隣市との連携の強化）
2-③	イベント待ちの状態で入院してきたため、退院に向けて介護保険や生活保護、後見人等の制度の申請手続きが一斉に必要なケースがある	困難事例に対する対応の強化 →事前の情報提供 →基本ルートの確立
3	入院先の紹介や市外の病院に関する情報提供が求められている	相談窓口の機能強化 →在宅療養支援窓口の設置

▼ルール化に先立つ課題整理等_③急変時の対応に関する内容

1. 目標設定 ※以降の検討内容を適宜フィードバックしながら最終案を決定する

目指す姿 (仮)	医療・介護・消防（救急）が円滑に連携することによって、在宅で療養生活を送る医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者の急変時にも、本人の意思も尊重された対応を踏まえた適切な対応が行われるようにする。 →地域の医療・介護関係者や病院・施設が連携して、予期せぬ体調等の急変に迅速に対応ができる (急変に備える、予防する、対応する)
-------------	--

2. 現状分析 ※1の内容を達成するために欠かせない視点を設定し、施策立案の手がかりとなる分析を行う

no.	視点／キーワード	該当分野を取り巻く状況
1	患者・利用者の体調の変化、容体の急変などに気づいた際に迅速に対応ができる体制が必要 早期発見、24時間対応	・急変に気付く仕組みとして緊急通報システムの貸与を行っている ・休日・夜間往診センターの設置（医師会）をはじめ医療職を中心に体制の拡充を図っている
2	重症・重篤な場合には、円滑に救急搬送がされるような体制、及び必要な情報を速やかに入手できる仕組みが必要 医療・介護・消防（救急）の連携	・緊急時の受入体制として、市立病院に一時入院用の病床を確保している
2	緊急時に対応できることは限られているため、緊急時の対応について事前に準備や意思の共有等が図ることが必要 日頃の備え	・「マイエンディングノート」を作成・配布している

3. 施策立案 ※2の分析から課題やその要因を抽出し、これに対応するための施策（案）を検討する

no.	主な課題やその要因	課題を解決するための施策（案）
1-①	訪問診療等を入れるタイミングが遅れ、入院して状況を立て直したり、退院時には看取り直前だったというケースが増えたという声がある	かかりつけ医等のすすめ →「かかりつけ」に関する情報提供や周知啓発 →連携勉強会や研修会の開催
1-②	気になることがあった場合に、介護職から医療職や救急へ連絡して良いか迷うことがあるという声がある	医療職や救急との顔の見える関係の構築 →連携勉強会や研修会の開催【再掲】
1-③	団塊世代が後期高齢者となり在宅で暮らす中重度の高齢者が増加することで、24時間対応を行う医療資源の増加を上回るスピードで急変事例が増加することが予想される	在宅医療を提供する事業所・機関と連携した体制の拡充 →休日や夜間帯の往診体制等の拡充
2-①	一時入院の条件がネックとなり利用ができなかったり利用を控えたりするケースが見られる	在宅や施設で療養を行っている患者の受入体制の強化 →緊急時の受入を行う病床の拡充（サブアキュート）
2-②	救急外来への受診や救急搬送があった場合に、患者の医療情報や介護サービスに関する情報、人生の最終段階に関する意思等を把握することが困難なケースが存在する	救急外来及び救急搬送時の情報提供方策の検討 →お薬手帳を活用した担当ケアマネの把握（仮） →緊急情報キット（医療・介護職、医療情報、緊急連絡先等）の普及啓発 →包括による実態把握の強化／包括を通じた情報提供ルートの強化
3-①	本人の意思に沿わない救急搬送が行われないよう注意を呼びかける声がある	救急搬送に関する情報発信 →救急搬送に関する注意点や救急車を呼ぶ以外の選択肢に関する知識の啓発 →意思表示書類の作成等（ACPの推進）

▼ルール化に先立つ課題整理等_④看取りに関する内容

1. 目標設定 ※以降の検討内容を適宜フィードバックしながら最終案を決定する

目指す姿 (仮)	地域の住民が、在宅での看取り等について十分に認識・理解をした上で、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・看護関係者が、対象者本人（意思が示せない場合は、家族）と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援する。 →本人の意向に沿った意思決定をサポートし、家族や関係者が悔いのない看取りを実現する （「こんなはずじゃなかった」を「これで良かった」に変える）
-------------	--

2. 現状分析 ※1の内容を達成するために欠かせない視点を設定し、施策立案の手がかりとなる分析を行う

no.	視点／キーワード	該当分野を取り巻く状況
1	人生の最終段階の医療及びケアについて、本人が理解し、その意思を家族等と話し合い医療・介護スタッフと共有していることが必要 ACP、意思決定支援	・市では、市民向けに「マイエンディングノート」の作成・周知や市民啓発講座の開催に取り組んでいる
2	本人の思いを叶えることができる医療・介護の提供体制が必要 多職種連携、終末期医療、緩和ケア	・看取りやACPをテーマにした勉強会を開催している
3	在宅で亡くなる方を支える家族への心理的サポートを含めた支援が必要 心理的サポート、家族支援、グリーフケア	・市では、がん患者やその家族を対象にしたがんカフェ等を開催している

3. 施策立案 ※2の分析から課題やその要因を抽出し、これに対応するための施策（案）を検討する

no.	主な課題やその要因	課題を解決するための施策（案）
1-①	なんとなく「在宅」を希望する方は多いが、実際に人生の最終段階について考えたり話し合ったりする方は少なく、そこまで多くの実績はあがっていない（ことが想定される）	ACPの普及・啓発 →推進役となる職種と連携した「マイエンディングノート」の活用促進 →意思表明書類の作成等
1-②	現状の連携シートでは時々で変化する状況や本人の思いを拾い上げ、関係者間で共有するのが困難となっている	新しい情報共有ツールの展開 →ICTツール等の活用促進（MCS）【再掲】 →意思表明書類の作成等【再掲】
2-①	「在宅」を希望する方の看取りを支えるためには、休日や時間外の対応、医療依存度の高い患者への対応を担う医療・介護資源やこれを支える仕組みが不足している	看取りに取り組みやすい環境づくり →休日や夜間帯の往診体制等の拡充【再掲】
2-②	専門職の間でもイメージや選択肢を共有するのが困難で、特に介護職からは不安の声（知識や経験不足）があがっている	看取りに関する知識やスキルの底上げ →医療的なケアに関する勉強会等の開催 →お一人様の看取りに関するモデルケースの検討（仮） →看取り後の振り返りの実施（事例報告会等）
3-①	介護に迷惑をかけたくない、自宅で支えられるか分からないという思いから、入所等を選ぶケースが多い（）	介護に関する家族の不安や負担の軽減 →レスパイト機能を持つ施設の拡大 →看取りができる施設の拡大
3-②	（特に離れて暮らす家族を交えて）人生の最終段階について考えたり話し合ったりする機会が少ないため、本人や複数の家族の希望が一致しないことで混乱が生じるケースがある	家族に対する情報発信の強化 →WEBを活用した人生の最終段階に関する情報発信 →ICTツール等の活用促進（MCS）【再掲】

(このページは白紙です)

5 国、東京都・他自治体の取組等の情報提供

5-1 情報提供の実施状況

「国、東京都・他自治体の取組等の情報提供」では、検討部会の検討内容にあわせて必要な情報の収集・提供を行っている。

令和6年度の検討部会では、在宅医療と介護連携における4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）について意見交換をする中で、看取り～ACPに関する話題となり、こうした取組を促進するためには共通の書式を用意できると良いという意見が出された。

ACPに関連する書式としては、日野市が毎年発行・更新している日野市版エンディングノートがあるほか、各医療機関では事前指示書を運用していることが想定されることから、多職種が共有する書式のあり方を検討する材料として、上記2つの書式の間を埋めるような事例について調査を行った。

▼情報提供を行った事例のイメージ

分野	具体的な内容
エンディングノート	・人生の終末期に“向けて”医療・ケアに関する内容以外にも今後の生活や死後のこと（遺言的な内容）まで様々な事項について希望や情報を記録するもの ・日野市においても「日野市版エンディングノート」を毎年発行・更新している
事前指示書	・人生の最終段階における医療処置（延命治療等）の希望の有無を確認するもの ・特に治療の選択について自分で判断できなくなった場合に備えて、次の2点を事前に明示しておくもの －どのような治療を受けたいか、もしくは医療処置を受けたくないか【内容的指示】 －自分で判断ができなくなった場合は誰に今後の治療について判断してもらいたい【代理人指示】
今回収集した事例	幅広い事項について本人が自由に記載するエンディングノートに対して… ・専門職が提供する医療・ケアの手がかりになる内容となっている ・自由記述よりも方向性を限定しやすく、また聞き取りもしやすい選択肢（とこれを補足する自由記述）を設けている 延命治療の具体的な内容に直結する事前指示書に対して… ・今後の医療・介護全体の方向性を明らかにすることを目的とする（長生き優先／完治優先／緩和優先／自分らしさ優先 等） ・上記の質問の前段として、本人が優先することを考える手がかりとなる質問を設けている（大切にしたいこと等）

5-2 情報提供の具体的な内容

収集した事例は下表の通り。誰がどんな目的で作成するかによってA～Cの3つのグループに分類するとともに、掲載項目を比較できるように整理している。

各事例は、おおむね以下の4項目をカバーしている点が共通しており、その聞き方や追加の項目の有無で様々なバリエーションが見られる。

- ① 大切なこと／人生における優先事項
- ② どう過ごしたいか／今後受けたい医療やケアの方向性（【内容的指示】に関連する内容）
- ③ 信頼できる人／自分の代わりに判断してもらいたい人（【代理人指示】に関連する内容）
- ④ 作成日と本人氏名（署名）

▼収集した事例一覧

パターン	パターンの特徴	事例番号	掲載項目（記載する内容）				その他
			①	②	③	④	
A	●考えて欲しい項目だけを示して自由に記載してもらう形式のもの ●エンディングノートから ACP に関連する内容を抽出したイメージ	A_1	△ 自由記述 ＋従来／将来等	△ 自由記述 (例えばの説明あり)	◎※ 複数名可	◎ ＋一緒に話した人	※相手に伝達済か否か確認する欄あり ・状態低下後の各種暮らし方の希望 ・基本情報、緊急連絡先、かかりつけ等
		A_2	△ 自由記述 ＋心情、嫌なこと	△ 自由記述 ＋望まない処置等	○	○	・最期の場所の希望
B	●パターンAよりも専門職に役立つ内容を確実に記載してもらえよう、所定の選択肢の中から最も近いものを答えてもらう形式のもの ●基本的な構成や選択肢の内容は共通しているものの、それぞれ以下のような独自の工夫を行っている ▶聞き方を工夫している（大切なことを特に詳しく尋ねる、選択肢を補足する自由記述欄を設ける等） ▶独自の設問を追加している（ケアに関する希望、最期の場所の希望等） ▶その他の項目を設けている（関係医療・介護機関、医療機関との話し合い等）	B_1	△ 自由記述	○	○	○	・搬送を希望する病院とその理由 ・身体状況、持病等 ・医療介護関係機関／担当／連絡先
		B_2	○	○	◎※ 選択肢＋記名	○	※複数名／複数属性の記載可 ・要介助状態の居場所や暮らし方の希望、最期の場所の希望
		B_3	◎ 選択肢＋その理由 ＋譲れないこと	◎ 選択肢＋自由記述 ＋望まない処置等	◎※ 2名まで可＋理由	○	※相手に伝達済か否か確認する欄あり ・最期の場所の希望とその理由
		B_4	◎ 選択肢多数	◎ ＋ケアに関する希望	◎※ 選択肢＋記名	◎ ＋一緒に話した人	※「いない」も選択可 ・完治の見込みがない場合の居場所の希望、最期の場所の希望
		B_5	◎ 選択肢多数	◎ ＋ケアに関する希望	△ 可否の確認のみ	○ 代理記入も想定	・健康状態の理解度、説明の希望 ・最期の場所や延命治療の希望 ・その他の自由記述欄
		B_6	○ 選択肢＋その理由	◎ 選択肢＋自由記述 ＋望まない処置等	◎＋Tel 2名まで可	○	・かかりつけ医に相談したいこと ・最期の場所の希望とその理由 ・医療介護関係機関
		B_7	◎※ 選択肢または自由記述	○ 選択肢または自由記述	○＋Tel	○	※日頃からと状態が落ちた時の2種 ・最期の場所や過ごし方の希望 ・その他の希望（遺言的な内容）
C	●人生会議の記録として、本人ではなく在宅に関わる専門職が作成することを想定したもの ●専門職による聞き取りが前提のため、パターンBのような細かな選択肢は用意していない ●特に1、2の2事例は、「人生の最終段階（中略）ガイドライン」に則って、意思表示を行う前に情報提供のステップを設けている	C_1	△ 自由記述	△ 自由記述	×	○	・実施場所、参加者（専門職等）氏名 ・家族の思い ・今後の方針
		C_2	△ 自由記述	△ 自由記述	×	○	・実施場所、参加者（専門職等）氏名 ・趣旨、今後の見通し等の説明 ・専門職からのアドバイス、まとめ
		C_3	△ 自由記述 ＋やってみよう	△ 自由記述 (医療者との約束)	△＋Tel (緊急連絡先)	○	・家族構成や病歴等の本人情報多数 ・最期の場所の希望、家族の思い等 ・医療介護関係機関
参考 事前 指示書	(特徴は／に記載した通り) (後段では記載前に読む説明資料もあわせて掲載する)	参考_1	×	△ 延命治療限定	◎＋Tel 2名まで可	○	・かかりつけ医記入欄
		参考_2	×	○ 痛み等に関する希望	○＋Tel	○	・最期の場所の希望

※ 該当する項目がない場合は“×”、該当する項目がある場合は“○”、該当する項目があるが他と比べて特に情報が多い／少ない場合はそれぞれ“◎”“△”で表す

▼B_1 沖縄県・沖縄県医師会「命しるべ（人生会議に関するパンフの一部）」

わたしの今の希望

情報共有シート

記載日	年 月 日	現在の住居	☐ 自宅 ☐ 介護施設：
フリガナ氏名		※本人が記載できないときの代理記載者（関係）	

◆わたしの今の気持ち

わたしがいま大事にしていることは：

そのために 受ける医療	☐ できるだけ長く生きることを優先した治療を受けたい
	☐ できるだけ長く生きることを優先した治療を受けたいが、つらい検査・治療が必要なら医療関係者とよく相談したい
	☐ 検査で病気が知りたいが、つらい検査・治療を受けて長く生きることより、負担のない治療や苦しさを減らすための治療を受けたい
	☐ 治る見込みが無いと医師が判断したら、病気がわかる検査や長く生きることより、苦しさを減らすための治療を自宅や施設で受けたい
	☐ 今は決められない
搬送を希望する病院	
その病院に 搬送を希望する理由	☐ かかりつけ医から病院受診を進められ、受診したことがあるから
	☐ 定期受診している先生がいる病院だから
	☐ 家の近くにある大きな病院だから
	☐ その他：

◆現在の医療情報 ※あなたの現在の状況はこのパンフレットで Story（ ）にあたります。

現在治療中の傷病名			
経過 処方及び治療内容			
介護区分	支援（ ）・介護（ ）	歩 行	自立・見守り・補助歩行・全介助（車椅子）
意思決定を行うための 認知能力	自立・いくらか困難・ 見守りが必要・判断できない	食 事	自立・一部介助・全介助／ 介助経口・その他（ ）

◆予想される緊急病態

--

医療介護連絡先	かかりつけ医	ケアマネジャー	訪問看護ステーション	薬局	介護事業所
機関名					
担当者					
緊急時連絡先					

▼B_2 (独法)地域医療機能推進機構 人吉医療センター「ACP シート」



アドバンス・ケア・プランニングシート

あなたにとって大切なことは？

あなたの人生で大切にしたいことは何ですか？これから先、どのように暮らしていきたいですか？あなたの目標・希望・想いについて気持ちを整理してみましょう。

- ☐ 楽しみがあること
- ☐ 身の回りのことが自分でできること
- ☐ 先々に起こることを詳しく知ること
- ☐ 一日でも長く生きること
- ☐ 家族や大切な人との時間を大切にすること

あなたが受ける治療やケアの希望は？

あなたが病気になったり、大きなケガをした時のことについて、あらかじめ、あなたの希望や想いについての心づもりをしておく、もしもの時に安心です。あなたの目標・希望・想いについて整理してみましょう。

① もしも、病気になったり大きなケガをしたら？

- ☐ 一日でも長く生きられるような治療を受け続けたい
- ☐ 期間を決めて治療を受けて、それから考えたい
- ☐ とにかく病気が治ることを目的とした治療を受けたい
- ☐ 死期が早まって、痛みや苦しみを和らげるための十分な処置や治療を受けたい
- ☐ できるだけ自然な形で最後を迎えられるように、必要最小限の治療を受けたい
- ☐ 延命は考えず、穏やかに過ごしたい

② もしも、介助が必要になった時は、どこで、どのように過ごしたいですか？

どこで？

- ☐ 病院
- ☐ 施設
- ☐ 自宅
- ☐ その他（ ）
- ☐ わからない

どのように？

- ☐ 家族に協力してもらいたい
- ☐ 食事やトイレなど、最低限自分でできる生活がしたい
- ☐ とにかく長生きしたい
- ☐ 家族に迷惑をかけたくない
- ☐ その他（ ）

③ もしも、病状が進み、最期の時が近くなった時に過ごしたい場所はどこですか？

- ☐ 病院
- ☐ 施設
- ☐ 自宅
- ☐ その他（ ）
- ☐ わからない

あなたの代わりの判断は誰にしてほしい？

あなた自身が判断したり希望を伝えることができなくなった時、あなたの代わりに医療やケアの判断をしてもらいたい人と考えておくことは大切です。代わりの判断は誰にしてほしいですか？

- ☐ 配偶者（夫・妻）
- ☐ 子ども（ ）
- ☐ 親戚（ ）
- ☐ 友人等（ ）
- ☐ 代理人（ ）
- ☐ その他（ ）

年 月 日 氏名

▼事例 B_4 館山病院「人生会議の記録」

人生会議の記録

お名前:

もしものときの医療やケアについて、大切な人と話し合っておくことを「人生会議」といいます

もしも治らない病気になったら

もしも自分の気持ちを伝えられなくなったら

元気なうちに、あなたの思いを言葉にして、伝えておこう

大切な人のために、自分自身のために・・・

1 もし生きる時間が限られているとしたら、あなたにとって大切なことはなんですか？（当てはまるものに✓をしてください。複数回答可。最も大切だと思うものに○をつけてください）

☐ 家族や友人・ペットのそばにいたいこと
☐ 仕事や社会的役割が続けられること
☐ 身の回りのことが自分でできること
☐ 家族の負担にならないこと
☐ 痛みや苦しみがないこと
☐ 少しでも長く生きること
☐ 好きなことができること
☐ ひとりの時間が保てること
☐ 自分が経済的に困らないこと
☐ 家族が経済的に困らないこと
☐ その他（ ）

お名前	
連絡先	

2 もし治療やケアについて、自分で決められなくなったら、代わりに誰に話し合ってほしいですか？

☐ 配偶者（夫・妻）
☐ 子ども・孫
☐ 親戚（姪・甥など）
☐ かかりつけ医
☐ その他（ ）
☐ 頼める人はいない

☐ 親（父・母）
☐ きょうだい
☐ 友人・知人

館山病院 緩和ケアチーム作成 2024.6.5

3 もし治らない病気や大きなけが等により、自分の気持ちを伝えられなくなったら、どのような治療やケアを受けたいですか？（当てはまるものに✓をしてください。複数回答可。最も大切だと思うものに○をつけてください）

治療

☐ できるだけ長く生きるための治療を受けたい
☐ 痛みやつらさを軽くする治療のみしてほしい
☐ すべての治療を受けたくない
☐ わからない
☐ その他（ ）

ケア

☐ 苦痛を和らげるための十分なケアをしてほしい
☐ 日常ケア（顔をふく・お口の手入れ・爪切り・髪をとかすひげそりなど）をできるだけしてほしい
☐ 知人・友人などに病気であることを伝え、自分のもとへ訪れるように頼んでほしい
☐ 可能であれば、好きなものを食べたい
☐ 可能であれば、誰かがそばにいてほしい
☐ 可能であれば、声をかけてほしい
☐ 可能であれば、体をさすってほしい
☐ その他（ ）

4 もし治らない病気などになったら、どこで過ごしたいですか？

☐ 自宅
☐ 病院
☐ 施設
☐ 今はわからない
☐ その他（ ）

5 人生の最期を迎えたい場所は、どこですか？

☐ 自宅
☐ 病院
☐ 施設
☐ 今はわからない
☐ その他（ ）

書いた日： 年 月 日

話し合った日： 年 月 日

証しあった人： _____

話し合いは繰り返し行うことが大切です

内容は、医療・ケアチームにも伝えておきましょう

▼事例 C_1 高岡市医師会「人生会議の記録」

人生会議の記録

本人氏名 :
日 時 : 年 月 日 ()
場 所 :
参 加 者 : 本人・家族 ()
 医 師 ()
 訪 問 看 護 師 ()
 ケ ア マ ネ ()
 そ の 他 ()

病状説明

本人の思い

家族の思い

医療・ケアについての希望

今後の方針

6 次年度の取組方針の検討

6-1 検討部会の開催

令和6年度の「検討部会」は、連携推進勉強会や「第4回ひの在宅医療・介護サービスフェア」の新企画について検討したほか、その検討にあたってはオブザーバー参加を認めるなど新しい試みを行っている。

令和7年度についても、こうした活発な議論を行いながら、引き続き在宅医療と介護連携における課題の整理や取組みの検討を進めることが求められる。具体的には、検討部会委員の特に関心の高いテーマを取り上げて、連携推進勉強会等の企画検討と絡めながら、現場の抱える課題に対応した実践的かつ効果的な施策について検討することを想定する。

<検討部会の進め方（案）>

- 年4回開催する（予定）
- 連携推進勉強会や「ひの在宅医療・介護サービスフェア」の企画検討と並行して在宅医療と介護連携における課題の整理や取組みの検討を進める
- 特定の議題について検討する際には、関係する職種・団体の代表等にオブザーバーとして参加を呼びかけることも想定する

6-2 多職種協働による連携推進勉強会の開催

令和6年度の連携推進勉強会では、過去の勉強会の中で言及が多かった障害福祉や生活福祉等の課題や、訪問看護ステーションという職種にスポットライトを当てる内容としたところ、各回多くの参加者が集まり、参加者からも好評を得ることができた。

令和7年度は、引き続きこのような内容の勉強会を開催するとともに、テーマ性を持った情報交換・意見交換が難しいという方のためにこれまで基本パターンとして開催してきた第1段階勉強会（下記参照）も準備して、経験や専門性、関心が異なる様々な専門職が参加したくなるような勉強会の企画・開催に努めることとする。

<勉強会・研修会の進め方（案）>

- 概ね3か月に1度の頻度で、合計3回の勉強会を開催する
- 3回の勉強会に共通して、例えば「看取り」等のテーマを設ける
- 各会の内容は以下を想定する
 - ―多職種がお互いの印象をざくばらんに伝え合う第1段階勉強会（基本パターン）
 - ―特定の職種にスポットを当てた第1段階勉強会
 - ―看取りに関わる症例について検討する第2段階勉強会

6-3 地域住民への普及啓発の実施

令和7年2月に開催した「第4回ひの在宅医療・介護サービスフェア」は、将来介護者となるような若い世代へのアプローチを強化するべく内容の検討や周知を行った結果、新たな企画が生まれ、30-40代の来訪者が大きく増加することとなった。令和7年度についても、今年度の反省点を元に企画内容のブラッシュアップや、効率的な準備・運営に向けた内容の改善を以下の通り進めることとする。

また、毎年実施しているリーフレット「日野市在宅療養ガイドブック」の更新・増刷にあたっては、「ひの在宅医療・介護サービスフェア」との連動性を高めるため、今年度のイベントの講演部分で取り上げた内容を反映する等の取組も検討することとする。

- ステージ（前半）の実施方法や説明内容を見直してテーマの更なる明確化や時間の短縮を図る
- ブース（後半）のレイアウトを見直して混雑の解消を図る
- 新たに始めた企画の実施方法をマニュアル化して関係者の負担軽減を図る 等

6-4 多職種連携ルールの更新

令和7年度は、既存のルールやツールのPR等に継続して取り組むとともに、現状の利用状況を踏まえた課題の洗い出し、整理を行い、専門多職種にとってさらに便利で利用しやすいルールやツールとなるよう、改善の検討を進めることが想定される。

また、今年度に実施した障害福祉や訪問看護ステーションにスポットライトを当てた勉強会の成果の活用についても検討を行い、検討の端緒にすることも想定する。

さらに、これにあわせて、以下のような既存のルール等に関するPRを行うことも検討する。

- MCS等のその他の連携ツールや連携推進勉強会（2章）に関する情報提供 等

6-5 国、東京都・他自治体の取組等の情報提供

令和7年度の検討部会では、引き続き在宅医療と介護連携における課題の整理や取組みの検討を進めることが想定される。そこで「国、東京都・他自治体の取組等の情報提供」については、検討部会の各回で議題になった／なる予定の内容について情報収集を行い、具体的な議論を進めるための材料を提供することとする。

- 例えば、多職種連携推進勉強会の検討材料となる「看取り（仮）」に関する他自治体の取組
- 例えば、今年度に勉強会や意見交換を実施した生活福祉分野に関する制度や取組 等